

第140回横浜市都市美対策審議会議事録	
議 題	議事1 各部会の開催状況について（報告） 議事2 水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）について（報告） 議事3 「みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路」について（報告） 議事4 新たな都市デザインのあり方冊子について（報告） 議事5 その他
日 時	令和8年3月24日（火）午前9時00分から午前11時14分まで
開催場所	横浜市役所18階共用会議室みなと4・5
出席委員 （敬称略）	野原 卓、大石龍巳、加藤光雄、加茂紀和子、川村篤志、北原まどか、真田純子、東海林弘靖、中島直人（リモート）、福岡孝則、三輪律江、山家京子
欠席委員 （敬称略）	青木祐介
出席した 幹事・書記	幹 事：樹岡龍太郎（都市整備局長） 書 記：古檜山匡和（都市整備局地域まちづくり部長） 馬場 明希（都市整備局企画部都市デザイン室長） 立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関 係 者	議事1：伊藤 三英（都市整備局企画部都市デザイン室担当係長） 新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長） 議事2：落合 剣人（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当係長） 議事3：桂 有生（都市整備局企画部都市デザイン室デザイン調整担当係長） 小國 恒之（道路局計画調整部企画課職員） 小島 類（都市整備局都心活性化推進部臨海部活性化推進課担当係長） 議事4：桂 有生（都市整備局企画部都市デザイン室デザイン調整担当係長）
開催形態	公開（傍聴者：0名）
決定事項	
議 事	1 開 会 （馬場書記） 会議の成立についてですけれども、本日は、委員13名中12名が出席されております。委員の半数以上が出席されていますので、審議会としては成立となります。また、本日の審議会は公開とさせていただきます。 （野原会長） まず、会議の公開について、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。 （馬場書記） 本日の議事については公開といたしたいと思います。傍聴人の方はいらっしゃらないです。 （野原会長） では、議事を進めてまいりたいと思います。 2 議 事 議事1 各部会の開催状況について（報告） （野原会長） 議事1です。各部会の開催状況についてになります。前回の親会、139回の都市美対策審議会以降に開催された各部会の開催状況についての報告ということになります。では、事務局から報告をお願いしたいと思います。 政策検討部会の開催状況について、事務局から説明を行った。 続いて、景観審査部会および表彰広報部会の開催状況について、景観調整課から説明を行った。 （野原会長） ご説明ありがとうございました。本件について何かご質問とかご意見、あるいは各部会長もおられるかもしれませんので、補足等ございましたらお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。景観審査部会の中島委員、何か補足とかありますか。

(中島委員)

特にないです。今ご報告いただいたとおりでございます。

(野原会長)

ありがとうございます。では、加茂委員、よろしくお願いします。

(加茂委員)

私の勘違いかもしれないですけども、景観審査部会はこれが今年度の報告ということになるんだと思うんですけども、加えて、今度また1つ景観審査部会がありますよね。

(新井係長)

はい。

(加茂委員)

それで、先ほどの水際線のデザインとか山下公園のことにに関して幾つか審議がありまして、まだ継続的にこのことについてやっているという認識です。だから、これが決定の案ではないと認識いただくといいかなと思います。

(野原会長)

ありがとうございます。今のを含めて水際線まちづくりの今後も含めた見通しとか、その辺もちょっとご説明いただけるといいかなと思います。よろしくお願いします。

(新井係長)

今回のご報告しかしておらず申し訳ございませんでした。今、加茂委員からお話がありましたように、3月30日には実は景観審査部会の開催を予定しております。この中で、水際線の照明計画については少しスケジュールが先なので書いていませんが、残りの事業につきましては、またそちらのほうでご報告させていただく予定になっておりますので、今年度の報告の中には入っていませんが、引き続き行っているものになります。こちらにつきましては、景観アドバイザーとして野原会長にも入っていただいて、都市美対策審議会の審議のほかにもお時間を頂いて整備計画についてご意見を頂いているという流れになっています。

(野原会長)

よろしいですか。ありがとうございました。ほか、何かございますでしょうか。ご報告ということでしたので全体整理で、ただ、先ほどのとおり、まだ年度末の最後にもう一回景観審査部会がございますので、今年度全部ということではないんですけども、ほぼ一応ご説明いただきました。この期というか前回の親会から今回までの間は、具体的な事業案件というよりは、どちらかというと長いレンジの水際線のコンセプトとか、山下ふ頭もありましたけれども、今後どうしていくかという大きな部分みたいなものも多かったですし、ヨルノヨのように、恐らくまた継続的にやられていくであろう都心臨海部の夜間の風景みたいなものとか、そういうものが多かったということもありまして、どちらかというと継続といったらあれですけども、今後も改めて見ていくものが多かったかなと思いますので、委員の先生方にはまた引き続きといいますか、ご覧いただければという感じがいたします。

(福岡委員)

細かいことはあれなんですけれども、資料1-2に書いてある結論のところですかね。今日のご説明の中で、この資料1から、報告事項の中にあった資料は概要なんですけれども、何が議論されて何が結論なのかとか、審議が継続しているのかというところを本当は明確にお示しいただいたほうがよかったなと。さっきの加茂委員の続きになりますけれども、一応報告なので継続で審議するものもありますし、藤が丘なんかはある程度もう決着しているというか。ですので、そのあたりがちょっと伝わりにくかったかなと思います。私は部会に入っているので進捗は理解しているつもりですけども、そういう形で全て結論が出ているわけではないということと、どういうところが今まだ課題で審議継続中であるとか検討中であるということも書いていただくと、もう少しその部分の解像度が上がってよかったかなと思います。以上です。

(野原会長)

ありがとうございます。資料1-2をもう少しうまく使っていただいて、景観審査部会の藤が丘のところだけ結論という1行があるんですけども、ほかにも何が議論されて次にどうなっているか、なっていないかも含めて、結論に近いところをもう少し丁寧に書いていただけるとよいというご意見かと思いましたので、そのあたり、今後ご検討いただきたいと思います。

あと1点だけ、表彰広報部会の話がありましたけれども、横浜・人・まち・デザイン賞も長らくやっっているながら、でも、まだ12回かなとも思いつつ、すごく長くやっているなという感じがあるんですけども、せっかく出てきたものがあまりPRされていない気がするというか、せっかくこうやって

選ばれているので、もちろんこの冊子もですけども、ぜひ発信をうまくしていただけるといいのかなと思いました。単に表彰するだけではなくて、ひょっとしたらそのアフターで何かそういう取組とかもあったほうがいいのかなとか、いろいろな考え方もある気がしたので、そのあたりも含めてぜひいい発信をしていただきたいなと思いました。

では、実は議題2が今の話の報告にもつながっていくところがありますので、もしよろしければ、また後ほど全体についてもお伺いしますので、議事を進めさせていただければ幸いです。ちょっと長期的なこともあるので、継続検討やそういうものを含めてしっかりキャッチアップというかウォッチしながら続けてやっていただきたいということも踏まえまして、議事1としては終了とさせていただきますと思います。

議事2 水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）について（報告）

（野原会長）

続きまして、議事2に参ります。水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）についてということになります。担当からご説明をよろしくお願いします。

議事2について、担当課から説明を行った。

（野原会長）

ありがとうございます。今ご説明がありましたように、資料2-2が原案そのものになっておりますので、そちらもご覧いただきながらお願いしたいと思います。では、本件につきまして、委員の皆様からご意見等がございましたら頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。大石委員、よろしくお願いします。

（大石委員）

ご説明ありがとうございます。先ほど部会の報告にもあったんですけども、具体の整備については今後、景観審査部会ということで、そこが大事になってくるのかなと思うんですが、今日の報告の中で、この原案をつくるに当たって市民意見募集の意見を少し取り入れているということでした。それは大事なことだと思うんですが、たしか600以上の意見があったと思うんです。具体的に取り入れているものは取り入れているものでいいんですけども、多くが参考にさせてもらいますという仕分にしている部分があって、ざっと私も全部の意見に目を通したんですが、非常に大事な意見も参考にしますという中に含まれていると思うんですね。事務方にとってはちょっと耳の痛い話も多分あると思うんですが、ぜひそういうところも今後の議論の中では、今後進めていく実務者の皆さんがそういうところもよく踏まえて議論していただければと思います。これは多分、市の中では大きなプロジェクトという位置づけになっていると思うので、上層部の意向とかいろいろあると思うんですが、あともう一つはスケジュール的なところもあると思うんですけども、今後の具体化に当たっては、繰り返しになりますが、ぜひ皆さんがよく議論して、部会からの意見も多分あったと思うんですけども、専門家の意見もちゃんと取り入れながら、これは質問ではなくてお願いなんですけれども、そこはぜひやっていただければと思います。

それと、スケジュールのところは、GREEN×EXP02027がもう1年後に控えていますので、それまでにやらなくてはいけないことがきっとあるんだと思うんですけども、そこまでにできることとできないことをちゃんと仕分しながら、拙速にやって後悔するのではなくて、いいものをぜひ十分な議論の中でつくってもらいたいなと、これも要望です。以上です。

（落合係長）

大石委員、ご意見ありがとうございます。市民意見募集で参考にさせていただく意見を頂戴しております。例えば舗装とかそういうのもしっかり景観に配慮してというご意見も頂戴しておりますので、そういったものをしっかり真摯に受け止めて、今後、設計など進める中で各エリアごとにしっかり検討していきたいと考えております。

あとGREEN×EXP02027までにつきましても、今、一旦、臨港パークを中心に整備を考えておりますので、頂いたとおり、できることとできないことをしっかり議論して進めていきたいと考えております。

（野原会長）

ありがとうございます。この期間に市民意見募集もあったということで、もしできればどんなご意見があったかというのをこの場でもご報告いただけるといいなと思うんですけども、ちなみに600

もあったということで、どんな意見があったのか、幾つかでもご紹介いただけたりしますか。

(落合係長)

主な意見としまして、「今回の水際線の整備についてはすごく方針に共感しています」とか、「水際線には酷暑や突然の雨をしのげる木陰や屋根つきのスペースをつくっていただきたい」とか、「車椅子やベビーカー等でも移動しやすい歩行者空間にしてほしい」というようなご意見を全体的には頂いています。臨港パークでは、「子供たちが海の生物について体験できる場所が欲しいです」とか、「ハンマーヘッドのところの舗装については、景観との一体感に配慮した色味やデザインにするべき」というご意見も頂いています。赤レンガにつきましては、「ペDESTリアンブリッジの整備は、イベント時の混雑解消にも大きな効果があるため早期に実現してもらいたいです」とか、「新たなにぎわい集客施設の整備では、民間との協力など多様な主体と連携して事業を進めていくべき」というようなご意見。象の鼻エリアでは、「開港の歴史を伝える場所なのでエリアの解説なども充実させてほしい」とか、山下公園では、「飲食施設が少ないので民間と連携してカフェ等の飲食施設を充実させてほしい」「山下ふ頭との連続性を考慮したまちづくりを進めてほしい」というご意見。照明については、「周辺の夜景を楽しめるよう、あえて光を抑える場所もつくるという発想はとてもよい」とか、「SDGsにも配慮して照明の整備をしてほしい」、サインについては、「多くの人に伝わりやすい表示の工夫をしてほしい」、「水際線と街のつながりの強化のところでは、鉄道駅から水際線へのアクセスを充実させてほしい」、そのほか水際線まちづくりに関することでは、「水際線のまちづくりを契機に周辺のまちづくりを推進し、エリア全体の活性化を図っていくべき」「都市景観形成に当たっては専門的なデザイナーの意見を取り入れていくべき」というようなご意見を頂いております。

(野原会長)

ありがとうございました。非常に貴重なご意見をたくさん頂いていると思いますので、参考にするということであれば、ぜひそのあたりをうまく踏まえてやっていただければと思います。では、福岡委員。

(福岡委員)

福岡です。私も水際線まちづくりのコンセプトブックに行くまでの各エリアごとの検討ですかね、そこも見させていただいたんですけども、今回、コンセプトブックを3月末に出されるということで、大幅な変更というよりは、まず出して、これに対して今後どうしていくかということで、そこに対してはしようがないと思うんですけども、章立てで見させていただくとよく分かると思うんですけども、例えば資料2-2の2ページ目ですかね。「整備の方向性」の後に、一番弱いところは、水際線の5つのエリアの水際線沿いの面的なエリアの連続性とか関係性と、全体を統合するビジョンとかデザインに関しては書かれていないと思うんですね。全体の位置関係は書かれているんですけども、じゃあ、この5つのエリアが相まったときに世界に誇れるという水際線になるのかということが、このコンセプトで示されていないのはちょっともったいないかなと思います。ですので、初動として、ファニチャーを置いて、物をいっぱいばらばら置いて、照明もつくって人がたくさん来ますよというKPIは分かるんですけども、でも、10年後、20年後、どういう水際線になるのかということを考えると、面的な水際線全体の関係性のデザインとつながりを考えていかなければいけない。そこがこの章立てからすっぱり抜けてしまっているもので、もしどこかで文言だけでも入れられるのであれば、そういった姿勢は書いていただけたらいいかなと思います。ですので、エリア、街と水際線をつなげるとか、線の話は出ていますけれども、それは照明と書くだけでは多分、達成し得ないと思いますので、そこが1つ目です。なので、いつも繰り返し言っているので申し訳ないんですけども、そこはずっと気にしなければいけないというか、大事な点かなと思います。個別に検討が進んでいるので、どこの自治体でもそうなんですけれども、公園の中でも噴水周りをやっているところとほかの園地をやっているところは別々に発注されたりして、その間の関係を調整することができていないことが結構あるので、この5つのエリアも、エリア別に検討はすると思うんですけども、統合デザインを誰がやるのかというところは部署も含めてよくご議論されたほうがいいかなと思います。

あとこの中の山下公園は、個別の議論は3月30日にあると思うんですけども、もうすぐ開園100周年を迎える公園ですので、あまり短く検討するようなものでもないのかかなり時間をかけて、例えば神戸市の東遊園地は150周年を迎えましたが7年間かけてやっていますので、そこら辺はもう少し重く受け止めてやらないと、小手先でやって失敗してこんな軽めの改修でいいのかというふうにならないように、そこは横浜市としてしっかり考えていかなければいけないかなと思います。以上です。

(落合係長)

福岡委員、ありがとうございました。面的にというお話は、私ども都市整備局が統括の立場でやらせていただいているので、来年度以降もそれぞれ景観審査部会で各エリアのご説明をさせていただきながらというところはあるんですけども、都市整備局としても全体をしっかり見させていただきながら一緒に進めたいと、そういう体制でやっていきたいと考えております。山下公園につきましてもみどり環境局とよく議論しながら、頂いたご意見をしっかり考えていきたいと考えております。

(野原会長)

ありがとうございます。真田委員、よろしくお願いします。

(真田委員)

真田です。全体的にはいいと思うんですけども、今後進めていく中で、例えば資料2-1の12ページに「誰もが気軽に飲食や休憩ができる施設の整備を行う」と書いてあって、これは非常に重要なことだと思うんですけども、一方で、10ページのところで「民間企業と連携しながら」と書いてあって、最近の傾向だと、Park-PFIとか使いながら整備するということが行われると思うんですけども、あまりそれを多用すると、民間企業がターゲットとしている人しか快適に過ごせないということがありますので、ここの「誰もが」というのは本当に「誰もが」を目指すということにちゃんと配慮してほしいなと思います。あと、「にぎわい」という言葉がよく出てきますけれども、水際の過ごし方として、一人ではちょっとできるとか、そういうのは建物が建て込んでいる街なかではなかなかできない、水際ならではの場所の使い方とか過ごし方かなと思うので、多様な過ごし方ができるということも同時に考えていただければと思います。全部がポジティブな空気ばかりにあふれていると、水際としてはちょっともったいないかなという気がしますので、よろしくお願いします。

(落合係長)

真田委員、ありがとうございました。まず、飲食のほうは、委員がおっしゃったとおり、Park-PFIという民間活用みたいなのところもあるんですけども、水際線上でベンチとかファニチャーみたいな居場所づくりをしながら、買ったものをそこで座って食べていただくとか、そういうようなところから充実もしていきたいなと考えています。

あと、多様な過ごし方ということも頂いたとおりで、にぎわいにぎわいみたいなのところだけではなくて、今の臨港パークの海沿いのところとか、すぐく手を入れるというよりは、今のよさを残しながら、そういう多様な過ごし方みたいなのも視点として取り入れながら整備していきたいと考えております。

(野原会長)

ありがとうございます。公共空間ですよ。公共整備ですから、そういったところをぜひ考えていただきたいということかなと思います。ほかは。では、山家委員、よろしくお願いします。

(山家委員)

山家です。各委員の皆さんの意見をそうだなと思って伺っていて、特に福岡委員のご意見には本当に賛成で、今回、デザインコンセプトプランというよりはまちづくりコンセプトプランなのでこういう書きようでもいいのかなとは思いますが、やはり私も、このコンセプトプランの中では「5つのエリアのつながりの強化」と書かれていますので、それが全体をどう統合するデザインなのかというところは見たいし、しっかりと語っていただきたいところかなと思います。この中だと、照明、サインというふうに具体的なものに落とし込まれているんですが、もうちょっとストーリーとして、水際線が紡ぐ物語とか、それぞれ場所の記憶みたいなものがあるわけですよね。それをどう見せていくのか。それが、サインボードにこういうのが書いてありますというのではなくて、それをうまくデザインとして見せていただけるといいなと思いました。

市民のご意見、この冊子の中では「政策検討部会・市民意見募集を受けて」と書いてあるので、どれが市民意見でどれが政策検討部会のご意見か、ちょっと読みづらいところもあるんですが、今の話を伺っていると、酷暑対策であるとか、水域をうまく可視化する技術でつなげるところとかは大変良いご提案だなと思って聞いていました。ただ、酷暑対策を見ていると、細かい話になってしまうのですが、昨今の状況を見ているとこれではちょっと足りないかなと思ひまして、最近、バルセロナでは気候シェルターを配置する試みもなされています。気候シェルターといっても、別に何かシェルターを新設するのではなくて、既存の公共図書館であるとかショッピングモールとかをうまく公共に開きながら、それを気候シェルターとして生かしていくということなんですけれども、水際線はそんなに大げさな建物ではなくても、何となく木陰とかではなく、もうちょっと踏み込んだ酷暑対策を打ち出してもいいのかなと思いました。以上です。

(落合係長)

山家委員、ありがとうございました。全体のデザインみたいところは、今後、来年度以降も各所管と一緒に進めていきたいと考えております。ご意見として頂戴します。

あと、酷暑対策についても、今言った木陰の創出とか舗装だけではなくて、一番はしっかりと、緑も含めて暑さ対策みたいところを記載させていただいているんですけども、もう一步、既存の施設とか公共施設みたいところと連携してという視点も来年度以降、考えていきたいと考えています。

(山家委員)

ただ、そうした統合のデザインといったときに、担当部局がそれをやられるのか、あるいは統合のデザインは誰が打ち出すのか、手がけていくのかというあたりはご議論いただきたいところではあります。あるいはアドバイザーに委託するか、いろいろな方法があるかもしれませんが、結構重要なところかなと思います。誰が担うかということです。

(野原会長)

ありがとうございます。いろいろあるとは思いますが、3月末には出るということで、ちょっと温かい目で見守っていただきながら、継続的にというか具体的にいろいろやられるときにも、委員の皆さんにはご意見を頂きつつ進めていくということが大事なと思っております。

今、頂いた意見はどれも非常に重要なご意見で、市民意見募集の話もそれだけたくさん意見を頂けているということです。ぜひその意見自体もちゃんとうまく出していただきたいですし、それを踏まえてどういうことを具体的に受け止めながら進めていくのかというのは、重要な点なので今後も忘れず進めていっていただきたいなと思います。あと、中長期的な目線で見ると、今、GREEN×EXP02027もあって、いろいろなイベントもあるとは思いますが、当然そこで終わりではないですから、むしろ始まりみたいところもありますので、その先も考えた中長期的に骨太な、まさに世界に誇れる水際線なので、そこを考えていただきたいと思いますし、世界に誇れる水際線が何なのか書かれていない気がしなくもないところが気になりますので、今後も引き続き詰めながら、ぜひ考えていただきたいところかなと思います。

あと、エリアごとの話もあるけれども全体の話もあるということで、この水際線を含めて街全体で、点・線・面とあるんですが、面の話はあるようでほとんどないなという感じがします。面というのはどういう面で捉えていて、特に街との接続が非常に重要だと、さっきの市民のご意見にもあったような気がするんですけども、具体的にはほとんど何もその辺がコンセプトとして示されていない気がします。エリア取りもほぼ線といいますか、エリアと書いてあるけれども線だなという感じもちょっとありまして、それも含めてどういう形でこれを広げて都心臨海部のほうにちゃんと接続していくのかというのは、やはり戦略を持って進めていく必要があると思いますので、そのあたりを含めて今後もぜひご検討いただきたいと思います。

(三輪委員)

1つ、もう少し俯瞰したコメントがあってもいいのかなと思っていて、多分、ここのエリアの水際線の話をしているんですけども、例えば、もう少し鶴見から磯子の辺りに向けた緑のネットワークが水際線に伴ってあるんですよね。生物多様性的な話で私の知っているところと言うと、割と希少種がこの緑を循環してつながっているという調査の報告とかも受けていて、特に今回は人のにぎわいとかそういう話があって、先ほど少し落ち着くとかそういう話になったときに、生物多様性的なイメージの文言が入っていないなとちょっと思ったりしていました。海、花、緑の、最初の水際線の魅力の1ページ目のところも、どちらかというと華やかな、花とか緑とか、変えていくというか、植え替えていくようなイメージなんですけれども、そもそも緑は、先ほどの日陰を生み出すというだけではなくて、生物の連続性みたいなものもポイントとして連続しているわけです。それは、この水際線だけの話ではなくて、横浜の水辺の緑全部を網羅して根岸のほうまでつながっている、それが三浦のほうまでつながっている、そこまで書き切るかはあれなんですけれども、その辺が特に今回のGREEN×EXP02027と絡むんだとしたら、その辺のコメントもあっていいのかなと思ったので、もしまだ入れられるようであれば、魅力のところにその観点が少し入ってもいいのかなと思いました。

(野原会長)

ありがとうございます。ぜひその観点を。資料2-2の5・6ページに航空写真というか、上から俯瞰の図がありますが、こうやって見ると、山手の丘側から本牧、磯子のほうに向けて斜面緑地というか横の連なりみたいなのがすごく見えてきて、今の話を踏まえて見ると、水際線の緑はこれが全部つながっていく海沿いの風景になるんだなという、まさに絵にもう既になっているというか、そういうものもあります。GREEN×EXP02027は、世界から横浜が緑についてどうやっているのかというのを見に来てくださるわけなので、この辺をぜひちゃんと見て、水際線全体も非常に魅力的な緑を踏

まえたまちづくりをやっているんだぞというのをPRできるといいのかなと思いました。今のところは非常に重要な視点として考えていただいて、そういう専門の先生がたくさんいらっしゃいますので、いろいろ知見を得ながら進めていただきたいと思います。先ほど暑熱の話もありまして、日本はどうしても管理の問題で強剪定みたいな感じですが、樹冠率をちゃんと上げて街の緑と木陰みたいなのをどうやってつくっていくかみたいなことを本気で市の政策としてやられていたりするところもありますので、今回はまさにいい機会だと思うのでそれも含めて、水際線も併せてその辺も考えていただきたいと思います。ぜひそのあたりをやっていただきたいと思います。

では、よろしいでしょうか。幾つかそのようなご意見がございましたが、まだまだ長く続いていくお話だと思うので、ぜひその辺も踏まえながら先に進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。では、そういう形で進めていただきたいと思います。

議事3 「みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路」について（報告）

（野原会長）

続きまして、議事3、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路についてのご報告ということで、お願いいたします。

議事3について、担当課から報告を行った。

（野原会長）

ありがとうございます。では、本件に関してご質問・ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。福岡委員、よろしくお願いします。

（福岡委員）

福岡です。2つあります。GREEN×EXP02027の期間はどんなストリートの活用をされるのかというのが、もしあればお聞きしてみたいと思ったのが1つです。これは個人的な興味です。

その1つ前のページで、今後に向けて、当面は都市整備局が主体になってお声がけをして企業に参画していただいて、キッチンカーを出してマルシェをしたりということが続くと思うんですけども、それは多分、持続的な取組ではないので、このみなぶんの、どちらかという水際線に向かった部分はなかなか主体形成は難しいなと思いつつも、そこでどうやって振りつけていくのかという話で、ニーズの把握ももちろん大事なんですけれども、多分、滞留量は測れる。滞留量と滞留時間と滞留の質は、どんなことをしているかということですよ。そのあたりは、モニタリングしていったときに、こういうプログラムのときはこれだけ滞留時間が延びたとか、滞留の質も、ただ飲食するとか買物する以外にもうちょっと会話が生まれたとか、もう少し違うタイプの人たちが一瞬でも交流したとか、何か設定を決めて測らないと、イベントをやって終わって、イベントをやって終わって、意向聞いていたら、体力がどんどん消耗されて次にボタンが行かないような気がするので、そのあたりはしっかりフレームを決められたらいいのかなと思いました。僕はちょうど19日にこの先の象の鼻テラスで打合せがあって夜にここを通らせていただいたんですけども、歩きやすくなっていましたし、夜だったのでそういうにぎわいはあったんですけども、象の鼻テラスの前とかで同時に同じイベントとかプログラムを仕掛けてとか、一応主体は分かれているんでしょうけれども、そういう工夫を打っていくことで、さっきの水際線のコンセプトブックにあった線でのつながりということをプログラムから創出するみたいなことも容易にできると思うですよ。そういう機会を実験と捉まえて、プランが実現するまで、空間はハード整備の時間がかかりますけれども、プログラムとかこういった実験でしたらもう少し早急にもできますので、そういうふうにして、できるだけ主体をどうやって形成するかという話と、その効果をどうやってモニタリングして、もう一回それを次にどう生かしていくかみたいなところが持続性につながるのではないかと思います。以上です。

（野原会長）

ありがとうございます。もし何かあれば。

（小島係長）

ありがとうございます。福岡委員のおっしゃるとおり、主体の形成というところが我々非常に重要な課題だと思っております。そういう意味で、地域関係団体のひとつがみなぶんの活用について関心を示していただいているところもあるので、そこのお考えとかを、今、福岡委員がおっしゃったというテーマ性を持ってやっていくかということも含めてやっていけるといいのかなと思っております。今、GREEN×EXP02027の期間というお話もありましたが、今時点で我々のほうでその期間に合

わせてここで何かという計画があるものではないです。ただ、先ほどのとおり、今後、活用意向のある団体さんと協議する上で、そういった意向がある場合は我々も協力しながらやっていけるといいのかなと考えているところでございます。

(野原会長)

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。真田委員、お願いします。

(真田委員)

真田です。車道を少なくして歩道を広げるというのは非常に良い取組だなと思うんですけども、今後進めていく南側というかBUNTAI側も、線路の辺りで広幅員の道路があったりしてかなり分断されているとか、横浜公園側から歩いていくとちょっと閉じられているとか、なかなか反対側に行きにくい雰囲気があるなと思っているので、そのあたり、どういうふうに一体化していくのかということであったり、それが難しいようであれば、緑の軸線との関係でどういうふうに人を流していくのかみたいなのも考えて、多分、考えていると思うんですけども、どういうふうにしようとしているのかをちょっと教えていただきたいと思います。

(桂係長)

本来は道路局から答えてもらったほうがいい気もするんですけども、計画時は僕が関わっていたのでお答えします。関内と関外をつなげるというのは、今回、みなと大通りとBUNTAI周辺道路というのを両方一緒に検討しようという形になって検討してきたものではあって、設計時もありそこを詰めてやってきたところではあるんですが、具体的に言うと、スタジアム、横浜公園と、BUNTAIがある通り側の横断歩道、今、3回横断歩道を渡らないといけないところを改善しようという試みではあったんですが、結果的には警察協議などを含めてうまくいかなかったところがありまして、信号の現示などを変えて渡りやすくすることと、渡る距離を短くするという形で整理して、今の計画になっているということだと思います。引き続き関内と関外をどうやってつなげていくか、今回まちづくりとして全面的に開発してきていますので、続けて考えていくことになるのかなと思っております。

(真田委員)

ありがとうございます。

(野原会長)

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。では、加茂委員、よろしくお願いします。

(加茂委員)

3つほどあります。1つは、基本的に歩道の幅を広げるとか、それについては良い整備だなと思うんですけども、一方で、自転車通行帯を設けられたということで、自転車に乗っているといろいろな思うんですけども、通行帯があるところとないところと、歩道を行ったらいいのかなとか、こっちを行ったらいいのかなというのが、今、多分、混在している状態なんじゃないかなというところがあって、その次のページを見ると、ゆとりのある滞留スペースというので、真ん中に分岐して道路との間にまた通路ができていたりとか、そうすると、歩道をどういうふう自転車とのすみ分けみたいなのを考えて全体を計画されているのかというようなことが1つありました。

あとは街路樹・ファニチャーのことについてなんですが、これは写真で私がちゃんと計画を把握していないのも問題なのかもしれないんですけども、何をどう変えたのかというのがちょっと分かりづらくて、これはどうされたのかなというのがありました。基本的にはイベントをするための滞留スペースなのか、それとも日常的に、木陰があるような写真もあったんですけども、少しこの場所で休むとかそういうことなのか、あるいは周辺にお店があった場合に、こういうところでちょっとお茶が飲める、テイクアウトみたいなことができるスポットとしてのこういう広場なのかというところで、さっきマルシェの話がすごく盛り上がっている感じはいいなと思いつつ、日常との関係をどういうふうに考えられてやっているのかということがちょっと分からなかったなというところなんです。3つほど言いましたが、この2つで質問させていただきたいと思います。

(小國職員)

道路局企画課です。自転車と歩行者の通行のすみ分けにつきましては、神奈川県警と協議して車道に自転車通行帯を連続して今回整備しています。ただ、歩道につきましては、自転車も安全に配慮しながら通行可能ですが、基本的には自転車は車道の自転車通行帯を通行していただく形で考えています。

続きまして、ファニチャーにつきましては、常にイベントがあるわけではないので、日常的に、先ほどおっしゃられたように沿道の買物の方々に休んでいただけるような空間プラス、こういったイベントにも使える形で、自由度が高いフリーな空間として整備しています。

(加茂委員)

ごめんなさい。どう変えたのかというのを。何が歩道空間で変わったのかなというのがちょっと図的に分からなくて。申し訳ないです。

(桂係長)

左の写真で言いますと、右側の色が変わっているところが拡張されたところになっていまして、今、れんがが太いかごに入っているベンチについてはもちろん当初なかったもので、植栽防護柵も、今、座れる高さで設計されていまして、それがぐりと囲んでいる形になっています。従前は、ただ横断防止のところに植栽があるだけだったんですが、そこを全部、全面的にやり替えて、滞留空間と歩行者空間の拡張をしているということなんです、お答えになっていますでしょうか。

(野原会長)

車道を1個潰して。

(加茂委員)

これは車道を広げた案ですよ。というか、やったんですよ。

(桂委員)

はい。同じようにここの部分というのは拡張されている部分になりまして、もともとは車道と歩道の境界はここになっていて、こちらを通っていたわけなんです、植栽をそのまま残しているわけではないんですけれども、もともとの植栽はここにずっと列でありまして、横断防止をするためにあって横断防止柵が流れていたんですが、横断防止柵はこちらの拡張したほうに持ってきていまして、こちらは低い柵を設けることによって上面も座れるようにしていますし、ベンチも整備しているという形です。

(加茂委員)

どっちも整備後ですね。失礼しました。

(桂係長)

そうです。後です。

(加茂委員)

じゃあ、もともとはこちら側が全部車道だったという。それを広げてこういう状態になっているということですね。

(桂係長)

こちらの色が変わっているところはそうですね。

(加茂委員)

すみません。失礼しました。そうすると、あともう一つなんです、自転車通行帯を整備されているということなんですけれども、自転車で通行するときは、その辺りは歩道に行かずに全部行ける状態になっているということですか。

(小國職員)

基本的には連続した自転車通行帯を整備しています。

(野原会長)

これは横浜市だけの問題ではなく全国的な問題なんですけれども、昔は自転車も一緒に歩道でやるというのはあったんですけれども、最近は全然認めてくれなくて、基本的には車道側に行きなさいということになっているご指導があるような気がしますので、多分、こういう形で調整した結果だと。

では、そろそろよろしいですかね。ありがとうございます。いろいろなご意見を今回も頂戴して、頂いたご意見を考えますと、やはり周辺との接続はすごく重要で、まさに先ほどの水際線コンセプトプランで面で街と接続すると言っている部分と、実際、みなぶんは神奈川県庁舎の1個手前のところまでしか矢印がないですけれども、もう一街区行ったらの接続をどう合わせながら、海と街をどうやってつないでいく場所になるかというのをやらないと、BASEGATEが盛り上がってもそちら側に行くという感じにならないような気がするのです。やはり街全体の流れみたいなものはすごく大事です、バイスターズ通りでも同時開催で、地域が自ら盛り上がっていろいろなイベントを企画して、19日か20日のどっちかぐらいにやられたと思うんですけれども、街の中への浸透みたいなものも考えると、ここが街とどういう関わりを持ちながらつくり上げられていくのか、育まれていくのかというのが極めて大事な気がしていますので、ぜひ周りも含めて考えていただきたいです。南がまだこれから、先ほど真田委員からご意見がございましたけれども、確かに間のところをどうやって接続してやっていくか、すごく大きな課題ではあってなかなか難しいところもあるんですが、ぜひうまく踏まえてやっていただきたいと思います。

あと整備に関してちょっと拝見すると、やはり附属物と附属物ががっちゃんこしていて、何か座れないぞみたいになっているところがあったりとか、もう少し丁寧にいろいろやることで、その辺の調整をうまくやりながらマネジメントしていくのは横浜市の得意なところだと思いますので、南側、BUNTAI側をこれから整備されるときも、その辺の検証を踏まえた形でぜひ進めていただきたいと思いますし、そういう意味で、利活用のほうは少し時間をかけてトライアルしながらまだまだ考えられると思いますので、ぜひいろいろな様子を見ながら進めていただきたいと思います。

ということで、今日頂いた意見も踏まえて、また今後進めていただきたいと思います。では、一応これで議事3の報告は以上とさせていただきますと思います。

議事4 新たな都市デザインのあり方冊子について（報告）

（野原会長）

議事4、新たな都市デザインのあり方冊子についてということで、事務局の担当からご説明をお願いいたします。

議事4について、事務局から説明を行った。

（野原会長）

ありがとうございます。こちらにつきまして、何かご意見・ご質問等ございますでしょうか。北原委員、よろしくお願いします。

（北原委員）

公募市民委員として、「ヒルサイドのくらし」からやってきました北原です。このすばらしいクレドが出来上がって、やはりどう使われていくのかという活用イメージを、作って終わりではない、使ってこそ都市デザインが生きていくものなのではないかと感じております。ぜひこちらを関係部局とも共有して、これから様々な、特に郊外部での再開発であったり、緑の空間、農の空間の位置づけをもう一回見直していくとか、そうした議論がもう既に私の住んでいる青葉区方面でも起こってきておりますので、ぜひこのクレドを基に、どのような未来志向の対話をつくっていくのかというところを、本当に実験として使ってみていただきたいなと思っております。特に団地の再生であったり、例えば地権者とか区分所有者といった個人の財産に踏み込む議論になっていく中で、上位概念である都市デザインみたいな議論をしていくのはとても難しいことかなと感じるんですけども、やはりその対立みたいな、利害を超えてこそその議論というのが豊かな街をつくっていくものになる、それを都市デザインが50年かけてやってきたんだというところの、もう既に実践知がありますので、そうしたこともお伝えしていきながら各部局とも連携して使っていただければと思います。

（桂係長）

ありがとうございます。北原委員におっしゃっていただいたとおり、青葉区で今、寺家ふるさと村のビジョンなんかをつくっているところをデザイン室もちょっとお手伝いしていたりするんですけども、そういった形で実践のほうにも入らせていただいて、50周年の方向性というのは決めたので、それをリアルに現場でやっていくというのを実践していきまして、ちょっと実践のほうを先走り過ぎてクレドをまとめるのにお時間を頂いてしまったところはあるんですが、こういった形であるとか、あと港南区の野庭団地なんかに出入りさせていただいているのもその一環で、大きくは都市デザインを僕は技術だと思っているんですけども、都市デザインという技術を人の暮らしを豊かにするために使っていくということと、それをなかなか上段に構えてご説明することは、地域の方たちになかなか機会がなかったりするんで、こういったクレドを使いながら、実際こんなものを作っていますという形で、理論と実践という話を国吉委員を中心にご議論いただいていたので、両方が使われるような形でやっていければと思っています。

（野原会長）

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。では、加茂委員。

（加茂委員）

これはすごくいいなと思っていて、これを見た横浜の方が自分も参加したいと思って、これからも一緒に考えていきましょうという、その矢印の矢先にびっと押したら、関係のところにもちょっと相談できるとか、そっちにダイレクトにつながるというのかなと思っていました。さっきこの冊子に記載があるQRにアクセスしてみたら、ばーっと報告書みたいな感じで出てきちゃうんだけど、実際考えていきましょうと言われたら、ちょっとアクセスするときにこの窓口につながるというと思い

ました。

(桂係長)

ありがとうございます。QRコードのほうだと結構多岐にわたるというか、都市計画マスタープランであるとか、住宅再生マスタープランとか、市全域の他局がやっているようなプロジェクトというんですかね、横浜市として考えていることにつながるようになっていまして、入り口としては、例えば都市デザインを入り口にしてもらって各部署につなぐとか、そこでの協働が生まれるとか、そんなことも考えています。ただ、読み物としてはかわいい雰囲気、気軽な気持ちで読んでいただいて、何か引っかかる場所があれば今みたいに掘り下げていただくというようなことなので、加茂委員に使い方というか、ちゃんと伝わったのかなと思って少し安心したところでもあります。

(野原会長)

では、真田委員、お願いします。

(真田委員)

非常に親しみやすいパンフレットができたなと思いました。ただ、ちょっと市民の立場になって考えてみると、自分が何か地域の活動をするとか、そういうものに対して、それを応援してくれるような制度があるよとか、多分そういうことなんだと思うので、そこがいまいち分かりにくいのと、あとは都市計画の提案みたいな、今やれる範囲の中でやるということだけではなくて、もっと根本が変わらないといけないことに対しても、何か意見を言い始めることができるんだみたいなところも伝わるのかなと思って、自分の最初の第一歩と何が変わるかみたいなところのつながりがもうちょっと見えるといいかなと思いました。

(桂係長)

ありがとうございます。そうですね、さらに突っ込んだところというのは、実際にコミュニケーション取りながらという形になると、やはりコミュニケーションツールとして使っていくということかなと今改めて思いましたけれども、ちゃんと意識して活用するようにさせていただければと思います。

(野原会長)

ありがとうございます。では、福岡委員。

(福岡委員)

簡単に、14ページの緑の部分で、都市デザインというみなとみらいというイメージがありましたが、多分、この緑の部分を含めて横浜市全体の都市デザインというところをすごく分かりやすく図化しているのと、あと、この17、18、19ページの断面のところもすごくいいなと思いました。このビジュアルと、あと、すごくそぎ落とした文言なんですけれども、それをぜひGREEN×EXP02027に向けて英語化して、今、結構簡単に英語化できるので、それを、横浜のみなとみらいに滞在される海外の方だと思わすけれども、多分、西のことはほとんど知らないの、これが全部横浜だよということ、何をやっているのかいろいろ伝える意味でも、これぐらいだったら英語化しても分かりやすいかなと思ったので。あまり重く考えずに、発信としては日本だけではなく世界に誇れるという意味で、さっき水際線コンセプトブックで世界に誇れると書いてあったので、そういうところにも使っていただけたらいいのかなと思いました。以上です。

(桂係長)

ありがとうございます。インクルーシブとかそういった話は、山家委員を中心にこれまで議論の中でもずっとさせていただいていたので、例えばPDFとか分からないですけれども、できる範囲のことはちゃんとやらせていただければと思っております。

(野原会長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。ありがとうございます。皆さん使い方とか広め方みたいなところをどうするかというのは、それぐらい良いものができているからぜひ使っていただきたいということですし、単純に横浜市のウェブサイトは深過ぎてというか内容が多過ぎてここまでたどり着けないので、何か違う形の発信もないと存在がまず知られない気がするの、うまく存在は示してほしいのと、あと都市デザイン室とかは、やはり市民から見るとちょっとハードルが高い感じがあって窓口としてはまだ弱いかもしれないので、何か気軽にお話しできる場というのが、いきなりは無理かもしれないんですが、将来的にはあるといいのかなと。オールインワンでちゃんとそういうことが言える場があるといいなと思いましたので、いずれにしてもせっかくなのでぜひうまく使われたり広まったりするようにしていただきたいと思います。

(桂係長)

ありがとうございます。

(野原会長)

どうもありがとうございました。

議事5 その他

(野原会長)

今、議事4まで来まして、(5)その他はどうしますか。

(馬場書記)

そうですね、時間が。政策部会がこの後、控えていますので、親会はこれでという形でよろしいですか。

(野原会長)

そうなりますと、今、議事1、2、3、4でいろいろ頂いたご意見がございましたので、取りまとめていただいて、よりよい形でまた進めていただきたいと思います。

その他ということですが、委員の皆様から何かございますか。大丈夫でしょうか。本当にすぐ長きにわたって遅れてしまいまして大変申し訳ありませんが、一応こちらで議事は以上としますので、本日の審議内容について事務局から確認をお願いします。

(馬場書記)

野原会長、ありがとうございます。報告事項として4件報告させていただきました。議事1の部会の報告につきましては、特に検討状況を明確に伝えられるように資料の改善をということと、横浜・人・まち・デザイン賞のPRをしっかりとお願いしたいというような話がありました。議事2につきましては、水際線の統合的なデザインを誰がするのかをよく考えてということがご意見としては多かったかなと思います。あとは3番目、みなと大通りの拡幅については、この取組自体はすごく良いのではないかと。あとは周辺との接続が重要であるということと、利活用の工夫も今後重ねていってほしいということ。4番目の議事につきましては、どのように使っていくかということ、使い方、広め方が大事ということをお話いただきました。まとめとしては以上になります。議事録については、会長の確認を頂いて閲覧に供することとさせていただきたいと思います。

(野原会長)

ありがとうございます。では、次回の審議会の日程等について、事務局からご連絡はありますでしょうか。

(馬場書記)

少々お待ちください。先ほど野原会長に飛ばしていただいた部分をやはりやったほうがいいのではないかと。手短に、申し訳ありません。

(野原会長)

まず、本当にふだんからいろいろな形で、委員の皆様方にはご尽力いただきましてありがとうございます。1965年から行われて、60有余年ぐらいかかって積み上げてきて、今回で140回目の都市美対策審議会になりますので、そういう歴史も非常にある中で私もすごくプレッシャーも感じながら進めておりますが、やはりよりよく、今までの横浜が築いてきた歴史と、さらにそれを次に向かってどうつくっていくかということを考える非常に大きな場ですので、ぜひその積み重ねた価値と次の在り方も併せて大事にして議論していきたいと思っています。

近年、大体20年ぐらい前に部会ができて、景観審査部会は多分2007年にできていまして、政策検討部会も2012年ぐらいに出てきて、部会制度化されている結果、個々のやり取りはどちらかというと部会の方で進んでいると思うんですが、一方で親会が若干、報告会みたいになっているところもありまして、本来、大きな目で見たとときに、どういう方向に進んでいるかをきっちり議論する場が重要なこと。今日も実は各議事の議論の時間が5分しかないということで、これは絶対収まらないなと最初から思っていたんですが、そういう形で、議論の場がなかなかつくれていないと思うので、親会で報告も大事なんですけれども、やはり大きな方向性についてこの場でみんなで確認していくこともすごく大事なと思っています。大体10年に1度ぐらい提言もこの審議会からさせていただいたりとか、今までもあったのではないかなと思うんですが、そういう形で、みんな大きく外れていないとか、未来に向かってどうあるべきかをぜひ皆さんと議論していきたいと思っています。

改めて親会の役割をこの60年間を通して問い直してみると、いろいろ時代によって違うとは思いますが、やはり大事なものは、横浜とは何かというか、横浜アイデンティティといいますか、横浜はどういうことを大事にしながらここまで来てこの先に行くかというのを常に議論している場だな

と私自身は捉えています。例えば都市デザインみたいなものがこの横浜で産声を上げて、当時も「東京じゃない横浜」ということを考えたときに、やはり港町の歴史とかそういうのを大事にすることや、人間的な都市空間とか都市の在り方というのを議論しようということで進められてきたのかなと思いますけれども、それも広く考えてみれば、横浜が横浜らしくあるためにと言うとちょっとあれですけれども、そうやってできる街の在り方というのを考えていると思いますので、引き続きまた、新しいこれからの横浜でもあるとは思いますが、横浜のアイデンティティというか、そういったものが何であるかということのをきっちり議論する場でありたいなとまず思っております。

2つ目に、都市美対策審議会で結構大事にしている、よく使われる「創造的協議」という言葉がありまして、今回は事業者による案件とかがあまりなかったんですけれども、ふだん景観審査部会や各部会では、それぞれの案件とかそういったものの議論をしている場面もすごく多いかなと思います。これは、横浜が単なるガイドラインチェックというか、事前確定的に決まっているルールを遵守しているかどうかをチェックしているわけではなくて、やはり在り方をみんなで議論しながら、これを「創造的協議」と呼んでいると思うんですけれども、そういう形でディスカッションしつつ、お互いでよりよい方向を見いだしていこうといったことを今までも積み重ねてやってきたと思いますし、そういう会でもあるのかなと思いますので、そういう意味では、ここにおられるいろいろな立場の先生方、市民の公募でいらしている委員もみんな含めて、どういうものであるかというのを、今までも出していると思うんですけれども、ぜひ意見を出していただきつつ、一方で、実際それを提案している、提言している主体側とか、あるいは場合によっては横浜市もちゃんと意見を、当初、都市美対策審議会には市の方がメンバーにいたのではないかなと思うんですけれども、今はどちらかというと事務局と委員みたいになっていますので、やはりフラットな場で、ちゃんとこういうことを考えてやっているんだというのであればその主張もちゃんとしていただいたり、なぜそうしているのかとか、そういった部分をぜひ考えて、よりよい協議、ディスカッションができる場でありたいと思っています。そういう意味でこちら側、委員会としても、いろいろな立場から、ある種、半分、専門的でもあったり、客観的でもあったり、そういった情報提供だったり、どちらかという知恵を出し合うというか、そういう形で我々も求められる審議会の形でありたいと思っていますし、そういうお知恵をぜひ皆さん、先生方にもたくさん頂いて、よりよい方向性というのを導いていきたいと思っていますということが2つ目です。

3つ目に、先ほどのクレドの話などにもつながっていくんですけれども、実は都市デザインの在り方というのは、大体10年ごとぐらいにいつも議論されていて、まさに10年前に都市デザインビジョンというのがつくられました。皆さんご覧になっているか分かりませんが、その中でも、今まで都市デザインは、どちらかというと行政側とか、ある種、専門側が引っ張ってきたところで、市民の人たちの参画とか、市民とともに考える都市デザインは何だろうというのがテーマに挙げられていて、その流れもあって未来会議も含めた話の結論として出てきた一つの成果が、今日お見せいただいたこのクレドだったり、使い方の話もありましたけれども、これを使って何かしていくということでもあったと思うんですけれども、その主体が誰であるかを踏まえつつ、皆さんとともに都市デザインを考えていく部分は、まだ積み残された課題かなと私としては思っています。そういう意味で、その辺の芽をどうやって育みながら、皆さんとともに、場合によっては同時多発にいろいろなところで起きてもいいと思いますし、そういったことを起こせる形がつかれるのかなというのはすごく大事だと思っていますので、ぜひそれは今後も皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますし、市民の皆さんとの協働のみならず、他部局連携といったものもすごく重要で、関内なんかでも経済局とかにぎわいスポーツ文化局とかも同じ場所をやっているんですけれども、やはり一緒に一つの街をつくり上げていくところとしては、まだまだ連携は足りていないかなと思ひまして、今日、緑の話もありましたけれども、そういった話を含めて、この場でうまく一緒に連携しながら進めていく方法論とか、そういったものを考えていきたいと思っています。

一方で、先ほど真田委員からあった話はまさに大事な話でもあると思っていますので、大きな都市デザインと小さな都市デザインといいますが、街全体の大きな在り方は、なかなか一人一人がどうしようということでは解決しなかったり、それとはまた違う大きな潮流や流れみたいなものもありますので、そういったものを、常にどう考えていくかという大きなところから見る部分と、一つ一つのいろいろな市民が起している活動や、いろいろなところで起きている事象をどう接続していくのが我々の役割かなとも思ひまして、そういった両方を見ながら、そういう市民のいろいろな活動がちゃんと大きな流れのうねりの中に入っていくとか、そういったところも併せて考えられる場を設けたいなと思っています。

	最後に、それをやるためには、やはりみんなが都市デザインとかみんなが蓄積して考えてきたことを共有することがすごく大事だなと思っていて、たまたま今月の頭に私はメルボルンにちょっと立ち寄ったんですけども、メルボルンには中心部にちゃんとデザインガイドがありまして、そのデザインガイドと街を見たら、街はそのとおりにできているというか、本当に書いてあるとおりですね。それはやはり、つまりは、いろいろな立場のやる側がやるべきことを認知しているとか共有しているとか、ちゃんとこういうことをやっていくんだということが何となく意思共有されているので、言われなくても見たら分かるというか、こんな感じになってるんだというのがすぐ分かる状態になっていました。横浜は積み重ねがたくさんあるんですけども、じゃあ何を目標してやっているかと言われて、ぱっと言えるかという自信がないなみたいなのところもあります。そういう意味で、やっていることは本当にすばらしいし、誰もが横浜といえすぐに横浜のブランドを感じられるくらい、今までの積み重ねによって横浜の価値ができていると思うんですけども、じゃあ、それでみんな目指す方向性を本当に共有できていると言われると、ちょっと自信がないところがあるなと思います。そのためには、まずはそもそもやられてきたことをちゃんと、先ほどもなかなか都市デザインを議論する場がそれぞれの活動の中では少ないというお話もあったと思うんですけども、そういったところを、自信を持ってこういうことだよと一緒に話し合える場であったり、伝えられる場というのがすごく重要です、何なら都市デザイン100選みたいなベタなやつがあってもいいかなと個人的には思っています。そのぐらい、我々が一見、分かっているように思っている、実は知られていないこともたくさんあるような気がしますし、先ほど英語化の話もありましたけれども、国際的に見ても知られているかという、どうなんだろうみたいなのところもあると思うので、そういうことは自信を持って、横浜の誇りとしてお伝えできるような、そういう共有の在り方というのものがすごく大事だなと思っています。それが根底にあれば、些細なところはいろいろあっても、大きな流れの中ではいろいろな議論がしやすくなる場になるのではないかと思いますので、その辺の流れを、ぜひ皆さんとともにこの審議会を通じてつくっていききたいなと思っておりますということでございます。 3 閉 会 (馬場書記) 野原会長、ありがとうございました。こちらで第140回都市美対策審議会を終了いたしたいと思えます。次回は9月頃をめどに開催予定ですので、また調整させていただきたいと思えます。お忙しい中、本日はありがとうございました。
資 料	・次第、審議会委員名簿、第139回議事録 【議事1】 ・資料1-1：前回（第139回）以降の各部会の開催状況（一覧） ・資料1-2：横浜市都市美対策審議会 各部会の開催報告 ・資料__政-1 ・資料__景-1 ・資料__景-2 ・資料__景-3 ・資料__景-4 ・資料__景-5 ・資料__表-1 【議事2】 ・資料2-1：水際線まちづくりコンセプトプラン（原案）について ・資料2-2：水際線まちづくりコンセプトプラン（原案） 【議事3】 ・資料3-1：みなと大通りの再整備について【ご報告】 【議事4】 ・「まちを くらしを デザインするヨコハマ」（冊子）
特記事項	・本日の議事録については、会長が確認する。 ・次回の審議会は、別途日程調整する。